



小池 ゆうや

上尾市議会議員



小池ゆうや 後援会事務所

〒362-0035 埼玉県上尾市仲町 1-10-3
TEL. 048-671-7789 FAX. 048-672-8579
yuyakoik@gmail.com

政策の詳細をインターネットで
確認することもできます。

小池ゆうや



討議資料
希望の進捗はつちら

活動レポート
23

YUYA KOIKE, Ageo City Councilor Report 2026.10

今回も小池の視点から現市政を質しました。テーマは「開発」と「教育」。「開発」については規制と誘導の両面から現在の課題を、「教育」ではAI時代を見据え本市における将来の教育方針まで踏み込みました！

令和8年9月議会の一般質問に登壇！

Pickup!! R7決算解説！審査の過程で見た「今」と「未来」

特集 徹底解説！R8.9月議会 小池の一般質問

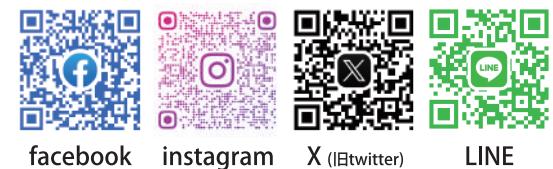
小池ゆうや後援会では、
入会いただける方を募集しています。

本会は、小池ゆうやの政治活動を後援することにより、
上尾市政の発展と上尾市民生活の向上を図ることを目的とします。
また本会は、会費または、寄附金及び賛助金で運営されます。

趣旨にご賛同いただけましたら、
「小池ゆうや後援会事務所」までお問合せ下さい。

小池ゆうやの SNS公式アカウント

SNSでも日々の活動発信中！



facebook instagram X (旧Twitter) LINE

令和7年度決算審査 小池ゆうやの主な質疑と市の答弁

全28件の質疑から
主要6項目を抜粋

① 財政運営と基金管理

質疑

実質単年度収支の減少や大型事業に備え、
基金の積立方針や運用の考え方は？

市の答弁

公有施設整備基金などへの積立を優先。
運用方法は安全性を踏まえつつ見直しを検討。

② 福祉予算と子育て支援

質疑

自立支援医療費の予算と決算の乖離は、
どのように改善していくのか？

市の答弁

実績を踏まえて積算を精査し、
実態に即した予算計上に努める。

③ ごみ処理・防災基盤

質疑

ごみ処理施設建設等基金の目標額や、
消防団・防災水槽の維持はどう進めるのか？

市の答弁

基金は約20億円強を目安に確保。
消防団員の確保や借上地返還への対応を進める。

④ 水道・下水道の持続性

質疑

重要施設管路の耐震化と、下水道事業の
収支悪化への対応は？

市の答弁

水道管路の耐震化を計画的に推進。
下水道は経営改善と一般会計繰入のあり方を検討。

⑤ 産業振興と税収

質疑

製造業の税収増の要因、事業所閉鎖の実態、
企業版ふるさと納税の拡大策は？

市の答弁

企業動向の把握を進め、新規開拓と
次期産業振興ビジョンの施策に活かす。

⑥ データ活用と広報

質疑

人流ビッグデータの活用や、市民に分かり
やすい情報発信はどう進めるのか？

市の答弁

データの横断的活用を進め、広報・情報発信の
改善につなげていく。

決算審査は、市民の税金の使われ方を点検し、次年度の改善につなげるための大切な審査です。

決算審査は、市民の皆さんからお預かりした税金が適切に使われたかだけでなく、**事業がどのような成果を生み、市民生活の向上につながったのかを検証する重要な機会**です。

今回、小池は決算特別委員会メンバーとして令和7年度決算について、財政運営、福祉・子育て、防災、インフラ、産業振興、行政のデータ活用など、**幅広い分野にわたり28項目の質疑**を行いました（詳細は右記の二次元コードから確認できます）。

特に、実質単年度収支の減少や基金の管理・運用、将来の公共施設更新に伴う財政負担など、**中長期的な課題を重視**。同時に、**各事業の予算と決算の乖離、施策の実効性、行政サービスの改善についても確認**し、R9予算編成の提言まで行いました。

今回の審査で明らかになった課題を次年度の予算編成や政策改善につなげ、持続可能な市政運営の実現に向けて、引き続き検証と提言を重ねていきます。

小池が質疑した内容と市の答弁の一覧はコチラから



令和7年上尾市決算審査を解説!!

審査の過程で見た 上尾市の「今」と「未来」

実質収支（黒字）

(単位：千円)



実質単年度収支の急減!!

実質単年度収支

(単位：千円)



なぜ今「実質単年度収支」という指標が重要なのか？
令和7年度決算を詳しく見ていくと、上尾市の財政は今すぐ危機的な状況ではないものの、**将来に使えるお金の余裕が小さくなっていく**ことが分かりました。
令和7年度の「実質収支」は約32.5億円の黒字でした。これだけを見ると、財政には余裕があるように見えます。しかし、**貯金にあたる財政調整基金の積立や取崩しなどを考慮した「実質単年度収支」は約1.6億円まで減っています**。
令和3年度は約14.1億円だったため、この数年間で大きく縮小しています。これから上尾市では、学校施設の建て替えや改修（35年で目標コスト約567億円）、広域ごみ処理施設の整備（整備費合計600億円＋用地費など）、給食センターの整備（費用未定）・図書館本館リニューアル（試算約16億円）をはじめとする**公共施設の更新など、多額の費用が必要**になります。さらに、**建築**

費の高騰に加え、過去の私の一般質問では、市から「金利が1%上昇した場合、令和6年度の借入れベースで利子償還額が約1億6千万円増加する」との試算が示されています。今後、大規模な施設更新に伴い市債発行が増える可能性がある中、**金利上昇は将来の財政負担を考えると無視できない要素**です。
つまり、実質単年度収支の急減という事象は**将来発生し得る本市の課題を予測する材料**と言えるのです。
将来の負担増に対して、「今」できることは、**この9月、小池が兼ねてより提言していた「中期財政計画」の策定が実現**しました。これは単年度の黒字・赤字だけでは見えない、将来の財政負担を見通すためのもので、「**今使えるお金**」だけでなく、「**将来も必要な市民サービスを維持できるか**」まで含めて判断できるようにする必要があります。この計画を基に、さらに**緻密な資金運用の在り方**について、提言を続けてまいります。

徹底解説！小池の視点

令和5年10月議会

一般質問

動画が見れます！

掲載されている
二次元コードから
YouTubeへ

都市整備
上尾駅周辺のまちづくりを考える！
「暮らしを守る開発」と「未来をつくる開発」

開発の「制度の空白」を問題提起

住宅開発はまちの活力につながる一方、**周辺への配慮が不十分だと住民生活に負担を生みま**す。今回、上町2丁目でマンション跡地の宅地分譲に伴い、ごみ集積所がなくなった事例を取り上げました。住民側での調整がつかず、6世帯が毎月6,600円を自己負担し、民間の個別回収を利用しています。私はこれを単純なごみ集積所の問題でなく**開発行政の問題と捉え、開発後の影響を抑制する予防措置の仕組みが必要と**考えました。市街化区域では、**原則500㎡未満の開発行為は開発許可の**

対象外。更地の分筆・販売は開発行為に当たらない場合もあり、市は現状相談がなければ事前把握が困難で、**開発後の影響を検証する制度もないと答弁**。私は、許可対象外でも一定規模以上の宅地分譲を事前に届け出てもらい、近隣説明やごみ集積所・排水・道路の確認につなげる「**事前届出・協議制度**」を提案。市は効果を認めつつ、**事業者負担や実効性を踏まえ調査研究すると回答**しました。開発を妨げず、事業者・購入者・既存住民が安心できる仕組みと、今回の事案の原因究明・再発防止を求めてまいります。

市が事前に把握しにくい開発届出・協議の対象にならない4つのケース（イメージ）

ケース1 更地を分筆して販売
事業者は建築しない

更地（例：1,000㎡）
分筆して販売
例：150㎡×6区画
購入者が個別に建築

分筆・販売だけなら、**開発の届出・協議は不要。**
個別の住宅建築も原則、**開発許可は不要。**
※建築確認は必要

ケース2 時期を分けて宅地分譲

第1期：2区画
第2期：1区画
第3期：2区画

各期が**500㎡未満**なら、**届出・協議の対象外。**
市が開発計画の全体を事前に把握しにくい。

ケース3 500㎡未満の分譲・造成
例：300～400㎡

道路新設・造成を伴っても、**開発区域が500㎡未満なら開発許可・事前協議は不要。**
市が事前に把握しにくい。

ケース4 既存道路を使う宅地分譲
位置指定道路を新設しない

開発区域が**500㎡未満**なら、**開発許可の対象外。**
市への申請・協議がなく、事前に把握しにくい。

届出・協議が不要なケースでは、市が開発内容を事前に把握しにくい

事業所側の開発手法によっては、市側で詳細を把握できない「制度上の空白」が存在している。

本項目における
小池の視点

駅周辺の戦略的都市設計を提言

上尾駅周辺の未来は、**個別の建て替えだけでは描けません。**今回、平成2年に策定された「**仲町愛宕地区地区計画**」を取り上げました。建物の共同化や街並み形成で一定の成果があった一方、**36年が経過し、商業環境や住宅需要は変化。中山道沿いには未だ狭い歩道も残っている**エリアもあります。

この区域は商業地域であり指定容積率が400%ですが、地

上尾駅周辺の商業地域と仲町愛宕地区計画

上尾駅は「**商業地域**」の利点を活用できる余地がある。

本項目における
小池の視点

区計画の住居ゾーンでは200〜240%に制限。**現行ルールが将来の駅前に適しているか、検証が必要**です。しかし、市は計画の抜本的検証も地権者への**主体的な意向確認も行っており、現時点で見直しは不要との見解**でした。中心市街地の在り方が見直されている今、**都市誘導の方策も考え直して**いかなければなりません。

そこで私は上尾中央総合病院裏手の飲食店街などの地域の魅力を生かしつつ敷地の共同化や歩行空間を改善する、**駅周辺全体の面的なまちづくりを提言**。土地利用や建物の老朽化、地権者の意向などを調べる「**上尾駅周辺まちづくり基礎調査**」を求めました。**市は調査も含め、産官学民が将来像を共有する検討の場を設ける考え**を示しました。今後とも行政の動きをチェックしつつ、**具体的な都市計画につなげる「戦略的都市設計」**を進めてまいります。

教育

探究的学習とSTEAM教育

変化の激しい社会では、知識を覚えるだけでなく、**自ら課題を見つけ、考え、仲間と解決する力**が重要です。この項目では、科学・技術・芸術・数学など**横断で探究が可能なSTEAM教育**の推進状況を確認しました。

市は、小中学校で探究的な学習やプログラミング教育に取り組む、実践事例を学校間で共有していると答弁。一方、**ロボット・VR教材は学校から導入要望がなく、活用シーンと費用が普及の課題と**分かりました。

そこで私から、**大学・企業・**



非認知能力向上に向けたSTEAM教育・外国語教育の位置付け



6%、埼玉県56.8%を上回り、**令和元年度の40.4%から伸び、着実に成果が表れている**ことが分かりました。

私は本市の取組みを評価する一方、本来の外国語教育の本質的意義を踏まえ「**伝えようとする意欲**」や異文化への関心も可視化するように提言。市は成果指標を研究すると答弁しました。

また、海外派遣研修は異文化に触れ、**自ら学びを深める上尾市ならではの探究の機会**でもあります。幼児期から中学校、海外派遣研修までの学びをつなぐ「**英語教育のロードマップ**」の提示も求め、市は**各事業のつながりを分かりやすく示す方法を検討**すると答弁。引き続き、本来の教育施策の目的が達成されこどもたちの未来に向けた取り組みを推進してまいります。

学校の消防設備は安全か？

学校で火災が起きた際、こどもの命を守る消防設備は確実に作動しなければなりません。この項目では、**東京都北区で発生**

した小学校火災を受けて、市内小中学校の設備と点検・修繕の状況を確認しました。

市は、全校で**年2回点検を実施し、一部の学校で経年劣化などによる不具合を確認**していると答弁。私は、安全に支障がある設備は校舎の大規模改修を待たず、**優先して予算を確保し修繕・更新すべきと求め**ました。結果、**速やかな対応を徹底**するとの答弁を引き出しました。

加えて、救助袋などの避難器具を教職員が**実際に扱えるかも確認が必要**です。消防と連携した実践的な訓練を要望したところ、**次の冬休みを活用して実施**することが決定しました。

現在本市でも学校施設更新計画が進行中かつ避難所としての機能強化が図られています。私は**火災や防犯に関する対策については児童・生徒を守るという観点において改善する余地がある**と考えています。引き続き、必要な予算確保に向けて声をあげてまいります。

結論

STEAM教育や外国語教育は、知識・技能の習得に加え、非認知能力の育成にも資する有効な学びの手段として位置付けられる。

出典（要約）：文部科学省「学びに向かう力、人間性等」／「STEAM教育等の各教科等横断的な学習の推進」／「外国語教育」、OECD Social and Emotional Skills, Frontiers in Psychology (2023)

次期学習指導要領の改訂が検討されている今、探究的学習の本質的意義を見直す必要があります。各教育事業の狙いやゴールの明確化も重要です。

本項目における
小池の視点